

道合居 だより

第174号

謹賀新年





はじめに

新年明けましておめでとうございます。

今年ほど年が改まることを願った正月はなかった。去年は全世界の人々が、かつて経験したことのないような大厄災の一年間だった。

ここまで、人々は多くの犠牲者を出しながらも全力で未知のウイルスと戦ってきた。

ようやく新型コロナウイルスワクチンが開発され、一部の人々に接種が始まったが、安心安全に一般人にいき渡るにはもうしばらくの月日を要することだろう。

しかし、だからといって決してこの一年間が最悪だったわけではない。

近い将来、この一年間があったお陰で人類は更なる進化を遂げ、より幸せな暮らしを手に入れることが出来るようになるだろう。

コロナのせいで不自由な日常を強いられてきたが、小生にとっても悪いことばかりではなかった。皆と稽古が出来ない期間中、自分を、居合を、門弟達を、そして

社会を見つめ直す機会ができた。

今まで長い間、何のために居合をやってきたのか、居合とは自分の人生にとって何だったのか。偉そうなことを言うつもりはない。人間形成なんぞの旗印を背負ったことなどないのだから。

上手くなりたい、強くなりたい、ただその一心でやってきたが、後から振り返ったとき、自分の人生の節目節目で、なんと居合に助けられてきたかを思い知らされている。

コロナ禍のせいで生活、心身が疲弊しきり、居合を続けられなくなった剣友がいる。

人一倍、居合に情熱を持ち稽古熱心だったのにである。残念である。せめて居合に励んでいた頃の自分を、これから先の人生の支えにして欲しいと願っている。

昨年的一年間が悪夢であったらと思いたい人はたくさんいることだろう。しかし時間は戻せない、取り返すことは出来ない。

せめて、あの一年間は決して無駄ではなかった、新しい日常、新しい価値観を見だし、自分にとってそれでも居合は必要だと、未来に繋がる思考を持って欲しい。

若者はもちろんのこと小生みたいな老いぼれでも、まだ間に合う。たとえどんなに短くてもその使い方次第で時間は充分応えてくれる。

時ほど思い通りにならないものはない。しかし、時ほどいか様にも応えてくれるものはない。

新しい年、輝かしい未来に向かって。

編集後記

明けましておめでとうございます。

令和3年の元旦はコロナの影響で人出も少ないのではないかと思います。

イベントは中止され、正月の挨拶も控えめになり、寂しい限りですが、悪いことばかりでもありません。

お年玉の出費は減り、いつもすれ違っている家族も家の中でゆっくり過ごせることでしょう。ピンチこそ最大のチャンスと信じて今年も一歩踏み出しましょう。

正月は最強寒波で雪が降るようですが、雪は古来「縁起のいいもの」で、大伴家持も「新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いやしけ^{よごと}吉事」と万葉集で謳っております。

「年の初めに降り積もる雪のようにおめでたいことが降り積もれ」というような意味でしょうか。

今ならコロナを覆い隠して幸多かれと願うばかりです。

表紙は正月らしく松竹梅にしてみました。

松はいつも青々としているところから長寿延命。

竹は折れにくいから生命力や成長。

梅は早春に天を向いて咲くことから繁栄や気高さ、長寿の象徴とされているそうです。ちなみに梅は中国原産で奈良時代ごろに日本に定着したようで、当時の憧れの大陸文化の象徴でもあったようです。

今年も松竹梅の如く、皆様に幸多かれと心よりお祈り申し上げます。

居合道部 広報

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第173号 令和3年1月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW